

# イランとゾロアスター

170830

支配者	王朝	宗教	支配地域の中心	年号	出来事
エラム人	エラム王国		アンシャン (シーラーズ近郊)	BC3200	<ul style="list-style-type: none"> <li>エラム人が、シーラーズ付近に居住を始めた。メソポタミアに隣接しているので、オリエント諸国との間で侵攻を繰り返し、BC1200頃、スーサ(バグダッド東部)に首都移転。高度の政治社会の仕組みを作ったが、BC640頃、アッシリアに滅ぼされる</li> <li>BC2000頃、インド・ヨーロッパ語族の一派であるアーリア人が、黒海とカスピ海にかけての中央アジアを起点として、東西に民族移動を開始した。イラン高原・インド大陸に向かった人々をアーリア人である。</li> </ul>
				BC810	<ul style="list-style-type: none"> <li>アッシリア王アダド・ニラリ3世(在位BC810~BC783)の時代は、アッシリアの領地が拡大した時代であった。摂政を務めた母セミラミスの功績が大きかった。</li> <li>その母は伝説上の人物で、フランスの劇作家ヴォルテールが、悲劇「セミラミス」を作りそれをもとに、ロッシーニは、オペラ「セミラーミデ」を作曲している。</li> </ul>
メディア人	メディア朝		ハマダン (テヘランの南西)	BC715	イラン北西部のエクバタナ(現ハマダン)を都とした。BC612に、隣国新バビロニアと共同でアッシリアを滅ぼした。
				BC660	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゾロアスター(BC660~BC583)は、イラン東部で生まれ、30歳の時に神アフラ・マズダの啓示を受け、善悪二元論並びに火を拝む等の教義を、布教し始める。ササン朝の時代まではイランで普及したが、イスラム教が広がると衰退し、インドに移っていった。</li> <li>イランのイスファハン近郊の都市ヤズドに、沈黙の塔、拝火神殿が現存し、その火は西暦470年から燃え続けている。</li> <li>ユダヤ教、キリスト教にも影響を与えており、ゾロアスターの考え方に敬意が払われている。</li> <li>モーツァルトは、オペラの「魔笛」でゾロアスターを主人公にしている。</li> <li>R・シュトラウスは、交響詩「ゾロアスターはこう語った」を作曲している。</li> <li>マーラーは、交響曲第3番第4楽章で、ニーチェの「ゾロアスターはこう語った」を語らせている。</li> </ul>
				BC587	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラクの新バビロニアの王ネブカドネザル2世が、ユダ王国のユダヤ人たちをバビロンに捕虜として連行した。</li> <li>ヴェルディは、オペラ「ナブッコ」を作曲した。「ナブッコ」は、バビロン捕囚を行ったネブカドネザル2世とユダヤ人解放を行ったキュロス2世を合体させた人物として描かれている。</li> </ul>
イラン人	アケメネス朝	ゾロアスター教	パサルガダエ (シーラーズ近郊)	BC550	<ul style="list-style-type: none"> <li>アケメネス朝は、メディア朝を滅亡させ、アーリア人つまりイラン人による初めての帝国を作った。</li> <li>イラン高原地帯であるシーラーズ周辺のパールス地方を中心地とし、ギリシャ人は「ペルシャ」と呼んだ。</li> <li>アケメネス朝は、通年にわたりギリシャとペルシャ戦争を行ったが、ギリシャの海軍力に負けて、勝利することは出来なかった。</li> <li>小王国だったアンシャンのキュロス二世により、イラン西部のメディア、トルコのリディア、また、エジプトを併合して、オリエントを統一し、高度な官僚制度を整備した。</li> </ul>
				BC537	キュロス二世は、新バビロニアを滅ぼしユダヤ人を解放した。寛大な人物評価がなされている。
				BC480	クセルクセス一世(BC519~BC465)は、ギリシャに戦争を仕掛け、スパルタを破りアテネに入場したが、撤退した。ヘンデルは、オペラ「セルセ」で主人公にしている。アリア「オンブラ・マイ・フ」が有名である。
			BC330	ダレイオス三世は、イッソスの戦いで、アレキサンダー大王に敗れ、殺害されペルセポリスが破壊され、滅亡する。	
シリア人	セレウコス朝		アンタキア (アンカラの南)	BC270	後継者争いの末、アレキサンダー大王の領地は、アンティゴノスのマケドニア、プレトマイオスのエジプト、セレウコスのシリア人に分裂し、セレウコスは、アンタキアを首都とした。
				BC250	アンドラゴラスが、支配地域のパルティアナを独立させてパルティアを建てた。

支配者	王朝	宗教	支配地域の中心	年号	出来事
イラン人	パルティア朝	ゾロアスター教	アシガバード (カスピ海東南)	BC248	カスピ海東南で現在のトルクメニスタンの首都であり、遊牧イラン人が、建国した。
				BC120	☞ <b>ポントス王国(BC281~BC64)のミトリダテス六世が、モーツァルトのオペラ「ポントの王ミトリダーテ」の主人公。</b> ☞ アンカラの北方の黒海に面した地域で、その頃、他国へ侵略するが、ローマの攻撃を受けて、ポンペイウスの支配下に置かれる。
				BC53	全盛期にはメソポタミアからインダス川まで支配し、ローマと八度にわたり戦ったが、内紛も起こり農耕イラン人により滅ぼされた。
	ササン朝		クテシフォン (バグダッド南方)	226	アルデシール1世がパルティアを滅ぼし即位し、パルティアの大半を引き継いだ。ゾロアスター教を国教にしたアーリア人の帝国である。
				260	シャープール一世は、エデッサの戦いでローマ皇帝ヴァレリアヌスを捕虜にした。
			イスファハン	415	アレキサンドリアの女性数学者ヒュパティア(350~415)が、異教徒と見なされキリスト教徒に惨殺された。恐れをなした多くの学者達がペルシャに移住した。
				579	ホスロー一世(531~579)は、国の発展、安定、文化面、学術面の充実の貢献しその時代が最盛期であった。
610	<b>預言者ムハンマド</b> が、メッカでイスラム教の布教を始める。				
651	☞ ヤズデギルド三世は、ローマとの戦い、国内の処理に追われ、ムスリムの侵入に耐えられず、滅亡する。 ☞ その後、ヤギデギルド三世の娘とムハンマドの孫フサインが結婚して、 <b>シーア派が生まれた。</b>				
アラブ人	ウマイヤ朝	スンニー派	ダマスカス	661	アラブ人によるイスラム史上初めてのカリフ世襲王朝。イベリア半島から中央アジア、インドまで支配。 ☞ ウマイヤ家をカリフとするスンニー派、第4代カリフの子孫のみをカリフと見なすシーア派。アラビア語が公用語。
				732	フランク王国とトゥール・ボワティエ間の戦いで敗戦。ビザンツ帝国のコンスタンチノープル攻撃は、失敗した。
				750	シーア派並びに非アラブ人のイスラム教徒により滅ぼされ、アッバース朝が成立。すぐにスンニー派に切り替えた。
	アッバース朝		バグダッド	750	☞ モハンマドの子孫をカリフとする。イベリア半島から中央アジアまで支配し、他民族による共同体国家を整備した。 ☞ ウマイヤ朝では、アラブ系ムスリムとイラン系ムスリムの間で不平等があったが、アッバース朝では、ムスリム同士に平等な権利が認められた。
				756	イベリア半島で後ウマイヤ朝が独立した。公平を期すために税制改革を行った。751に中国より製紙法が伝わった
946	900年初頭エジプトで、シーア派によるファーティマ朝が独立。				
イラン人	ブワイフ朝	シーア派	シーラーズ	932	カスピ海南岸のブワイフ家が、イラク、イランで興した。アッバース朝のカリフから大アミール(首長)に任命された。
				1055	テュルク系のマムルークのセルジューク朝に奪われる。
トルコ人	セルジューク朝	スンニー派	バグダッド	1055	アッバース朝のカリフからスultanとしてバグダッドに招かれた。カザフスタンのイスラム・トルコ系遊牧民である。
				1071	東ローマ帝国を破りアナトリアを支配し、ルーム・セルジューク朝を興す。
	ホラズム・シャー		サマルカンド	1077	セルジューク朝の奴隷軍人が即位。
1231		チンギスハンの後を継いだオゴデイ・ハーンにより、滅亡していった。			
モンゴル人	イルハン朝		タブリーズ	1256	チンギスハンの孫フラグが建国。
				1258	アッバース朝の首都バグダッドを陥落させる。
				1271	マルコ・ポーロがイランを通過して中国に向かう。
				1290	第7代君主がイスラム教に改宗。
	ティムール朝	スンニー派	サマルカンド	1370	モンゴル人によるイラン全土がティムール帝国の支配下になる
1405				明への遠征に向かう途上にティムールは病死した。	

支配者	王朝	宗教	支配地域の中心	年号	出来事
イラン人	サファヴィー朝	シーア派	タブリーズ	1501	シーア派を国教として、イラン人のイスマイルー世(1487~1524)が即位。
				1514	アナトリア半島東のチャルディランで、セリム一世のオスマン帝国と戦ったが、大砲を使うオスマン帝国に騎馬軍団が負けた。シーア派の領土拡張欲と、それを阻止するためのスンニー派のオスマン帝国との戦いであった。
			イスファハン	1598	アッバース大帝(1588~1629)時代が全盛期で、イスファハンに遷都したが、死後、衰退していった。
				1653	ムガル帝国(1526~1856)は、サファヴィー朝文化の影響を受け、有名なタージ・マハルには、イラン人建築家が関わっていた。
	ガジャール朝		1796	トルク系ガジャール族のアーガー・モハンマド(1742~1797)が即位し、テヘランを首都とした。身内に暗殺される。	
			1804	南下してきたロシアとの戦争(~1828)により、グルジア、アゼルバイジャン、アルメニアの領有権を失った。 フランスとイギリスに応援を求めたが、なにもしてくれなかった。また、ロシアとイギリスに対する関税自主権を放棄させられた。	
			1856	第4代ナーセロッディーン(1831~1896)の時代には、イギリスによって、アフガニスタンの西方地域を奪われた。 1890年には、イギリス人にタバコ利権を供与した。	
			1906	立憲革命とは、日本の対ロシア戦争勝利に触発され、ヨーロッパ志向の改革派と、政権に対して異議を唱える12イマーム派シーア派のウラマー、外国勢力の経済的支配に反感をいだくパーザール商人らが協同した。 政府に憲法の発布、議会の設置を求める一大運動をおこすが、イギリス、ロシアの介入により失敗する。	
	パフラヴィー朝		1908	中東における最初の石油が発見されるが、開発する力がなく、イギリス資本のアングロ・ペルシアン石油(株)が石油利権を得る。	
			1925	第1代レザー・パフラヴィー(1878~1944)がクーデターを起こして即位し、テヘランを大規模改造し、近代化していく。	
			1935	「アーリア人」による「イラン」と定めた。第二次世界大戦では、ドイツ寄りだったため、イギリス、ロシア、アメリカの侵入を招く。	
	イスラム共和国		1951	モサデク首相が、イギリス資本の石油会社を国有化宣言するが、アメリカの画策によるクーデターにより無効となる。 アメリカは、レザーの息子を第2代ムハンマド・パフラヴィー(1878~1944)に独裁政権を樹立させ、近代化していく。	
			1979	急進的な近代化により反動が来て、市民の反発を買い、イスラム革命政権に権力を奪われる。ホメイニ師が権力を奪取した。 アメリカが、パフラヴィー前国王を受け入れたことに、イスラム法学校の学生らが反発しその一部がアメリカ大使館の塀を乗り越えて侵入した。新政権は、これを放置したが、これが、アメリカ大使館占拠事件。	
			1980	アメリカの支援を受けたアラブ人によるイラクとの間で、境界線上の問題から戦争となる。1988年、停戦になる。	

(注1)イランの歴史は長く、紀元前550年のアケメネス朝ペルシャから始まった。

(注2)2500年以上の歴史における外国人支配は、アレクサンダー大王一派のマケドニア・シリア人に約80年、トルコ人に約200年、モンゴル人に約250年である。

(注3)前期が、アケメネス朝ペルシャからササン朝ペルシャまでのペルシャ帝国約1200年。後期が、サファヴィー朝から現代のイスラム共和国までの約510年。

(注4)長い歴史を持つが、繁栄と衰退の繰り返しで、ガジャール朝以降の歴史で苦勞することになった。

(注5)アケメネス朝時代のキュロス2世、ササン朝時代のホスロー1世、サファヴィー朝のアッバース大帝等、りっぱな支配者がいた。